

一九九一年度 第八回運営委員会記録

日時 一九九一年十月十日

場所 長野県木曾郡檜川村、檜川村福祉会館

出席者 武田恭治、松岡昌則、米沢知彦、杉岡直人、相川良彦、徳

野貞雄、佐藤康行、鳥越皓之、嘉田由起子、北原 淳、高

橋明善、細谷 昂、渡辺 正、古賀倫嗣、長谷川昭彦、柿

崎京一、高山隆三、大沼盛男、我孫子麟、大野 晃、交野

正芳、河村能夫、松田苑子、吉沢四郎、松本通晴、西村

卓、庄司俊作

報告

高橋明善会員より、第八回国際農村社会学会大会の取組みについて概略以下の点が報告された。①九月段階まで大会への参加希望を表明している方は十九名、そのうち十一名が大会での報告を希望していること、②自由報告申込みの締め切りは一九九二年三月一日に変更されたこと、また課題報告の申込み締め切りは十二月三十一日であること、③村落社会研究会としては、Land Reform and Sustainability in Agricultural Modernization - Japanese Experience のテーマで課題報告を申し込みたいと運営委員会で話し合われたこと、④具体的なプログラム、参加申込みの方法など連絡があれば、参加希望者には個別に、会員にニュースでお知らせすること、等。

審議

一 一九九一年度総会について

総会提案事項(事務局報告、九一年度決算、九二年度事業計画・予算案等)別項総会記録参照)について事務局案を了承した。

二 次期事務局を関西学院大学(鳥越皓之、脇田健一、足高壱夫、寺口瑞生の各会員)が担当することを了承した。

三 次回大会を熊本女子大学(米沢和彦会員)が担当することを了承した。

四 九二年度大会の共通課題について

九一年度共通課題、「日本農業・農村研究の課題を求めて―家族経営危機の国際比較」を継承することが決定された。

五 その他

村落社会研究会の財政状態について、とくに九一年度の活動により逼迫したことが報告され、九一年度決算、九二年度予算から見ると、九二年度は赤字になる危険性が大きいことなど、討議された。手続き上九一年度の総会で会費値上げの提案はできないが、カンパを募るなど緊急避難策を考える一方、緊縮財政を心掛けて活動すること、また、必要によっては、九二年度総会で会費値上げを提案するための検討を行なうべきであるなどの意見が出された。